文新撰

冠附水加減

全

へ9
3869
100

100

利
3942
34

特
3869
100

大正七年吉日寄
室井平藏氏贈

冠附集成 水加減

浪花桐芽庵曲坡選

今ゝも又

紀宮の延び番頭旬

日負して来る池の人

口でもりくと仕舞ふ子形

うひ美ひくく若旦那

居ふろなく思ひ

お部屋

雑巾
貴ル
大僧
逆
呼
寝
嫁入り
ちん
何
貪

水二

徹
御
蚊帳
御所柿
湖子者
医者孔
没文の通り
茶の間
御所
目眼

ちん
薬
遊
大工
磯
笑
養
かぶり

ふ[illegible]く　口入[illegible]

一すン先ハ

くゝり[illegible]ゝ来分限

[illegible]ゝ[illegible]ゝなく貪[illegible]

水れ出[illegible]なの　美[illegible]

あゝ天窓が[illegible]く小[illegible]

[illegible]で首　[illegible]ぬ胴

的かあり

毛[illegible]ゝ抜く　老如[illegible]

[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]たいこ

然ひ[illegible]ゝ[illegible]藝子

土器ふくむ　[illegible]の[illegible]

小者ゝかしゝる[illegible]太夫

口どめして

強人ゝ極[illegible]　[illegible]夫

[illegible]つゝ[illegible]ふ　大[illegible]居

粹ない　連く　生ス羽織

一[illegible]迫所ゝ　[illegible]ケ[illegible]

あゝ[illegible]

余所の[illegible]旦　[illegible]夫

婆の葬送る　婆の〻も
モウ引取れ引く　蠶子
石如し　笑ふ　息子母親
汁達たしや
欠かさぬ朝時なよく別れ
此場く呼ても陸我や
泥やう迫て　泥く状
七夕ーしや
番代が来ふ　蠶子数
織窓へチャル　牛きひ

段月製結ろ　呼ても嫁
輝しりろ　長ふり
ちよんのるに
て整ち様へ　仲居
よりち蠶子が遠た乳
宮薄中ろ見る　芝居
芝居一切りねム　毒
お布施を水よりた伊信
渡れ川や
正月ゆうなし　蠶子

いつそ又まも明〳〵若
よもを笑ふ　とも寄
美の侍て
名ゐ〻の嫁の集る　料理や
本宮の粋か　茶屋遊入
儒者四人の　巻見連
　　ぜさまふ仕家
口入を活す　厄旦那
眼うり垂れ婚ス　屋敷
女うぐみな　拍子唱

明暗ゆ本宮小ひんキ　之友
　皆さなへ
陰の根と　家の根
かさ鉢焼くく　ふを宮屋
伝ねと舞く居る　薄中
　義理ゆらく
入前のひ　男伊達
藝子〻運の　強イ方
モウ垂れ出ス　儒者の弟子
　ぢさんて

嫁為もどりうぐめく涙
沙だけせまく藤れ女房
一本くべる　釜の下

如光なし

為ちの年をそのの老
を葉の只うぬ　を仲人
日の暮ザルと　質屋
ゆ書せく

野の駄寺やぶれ法一
寂ハかり　賀の光

新六

新と思て居れ法沙のま
笑ふなな　粹受人

仕ヨるゆを

矢脊ふ法迎　初懺
門て月見ル　若と那
胸髭つく　藤ひまま
よい形さ　寡のま
今一切見ル　一両　舎
豊年巻ル　ちちっち屋
青くくいる　料理茶屋

もしの糞ヲ突　白眼合

芝ハどふしゃ

足出屋ぐ　ふ出

鼻なしふ屋ふ　國の友

餅やうう　たいこ持

花さげく

別道走れ　道見方

柳ゴのよくひ　女醫者

天狗て戻れ　関の丈

もつての家ー

土ぜ　呑込

帆柱の　ー　湊入

ふ乳母ゴ　小百姓や

やうましい

ゴのうけ走ふ　ゑ金嘆

ないく静な　虫所

三毛ぶ　のちふ婆

米お場ふ　長井戸

春風の吹くさかん前

悪口積んたやふな　舟

ちんくと
月見して居る　西瓜番
三世相くりかへる　娘
さるぐつの中に居る新嫁
寺やる迄に　天の川
毎日そばをくふ　女夫
臍くりくりの肩　女房
新ようせとこんん　役者後家
うつくく
出羽亀丁ゝ　八百屋

絵ゑ屋うりに来ると雑
付ケ小眼の出ると傷馬
百姓ゝ眼黄ふ健ケ出道
水根つく香町ゝ出て
色くと
股毒小凝ると西方寺
夏育ち化ル禅料理
見えの角力と出て本屋
嘘風ゝうた枕絵師
いつる拭いさ妾ち兄

殘儀ある　聚毛はち
借金出うん　玉役者
ほそもふ
ふんこうこうくるバ沿ち
和尿のつくく　橋ら食
無心ハこうんこうえうぬ雞子
ぐつち仕えん　美国為
哇道通ん　尼友の華
案に相遠
くくく舎るよも　関ら鯛

貧乏てトもふ風貫ハ鄙
猫買こう行くく白蔵
同行が我新文の料
月夜の鱶な藏擣
見てかけりや
禍伴とまつる芝翁夢
布のそぞんさ　橘鯛
元像ち出て太良梅
時雨ふく
夜かさ家ハ千庵〻東書

侍りなん寺八百屋
奴がもとへ追ふ命
夜ハ明く
ふい舟に参る舟の中
生洲へ二人連
下戸等もさぞ水の味
わるくろりくの深く浸
モ又意しい若旦那
御くの網代女房の髪
まろ黒くー

狐治屋の中子れ白崩
つらひたぶれ瓶れ宵ん寡
城氏市ろりあるる人
安イ毛の生ヱ昼森丁兎
ちろるの仕義ち電責
旦那らぬ煙排
くせりなり
牧洲ちた弱俄尼
物ろりあるちろる龜
喰にも紙りまや薬

未嫁制め　すくん

油ハ世ぬ

夜昼月ばえんルしらや

唸迯の裾めつ　熱嫁

挑灯つくちぬ　大工

罕ハ宿しくる　皮のぎり

喧いるめ子ょう　歌ス　母

戸とのく　藤ん　垣ん番

ぼうり来て

ちひ美えんス　接婆

知り尼仕ハ　茶道奥座

湯を水すくる　歩　妙

風呂やを泛ス我大文凝

死眠り今ぬ席やぐり

泳くいて

百万遍繰矢脊ん嫁

ぼし心を女ぬ　形

尻のこぢだんる　潔京

結ふり滅　祈らま

すきん

延紙へ脊中で這ふ蟲
くゝり涙つゝ出る末の髪
孫牛の悩イ　丈飛つゝ
魂に大郎ふ　蜂蠶子

ちつゝの間
もふ思ふ〳〵笑〳〵矣
もの〳〵派偏〳〵下駄
たいこが大ゝ中ぐる　扱織
又来ん節〳〵事　義ゝ汗
怪ひく〳〵

巣汎の出れば　庚駕
ふぐ汁を吸ふ負〳〵み
亦イ忠〳〵い〳〵足
重　蕊に入間去
衰なゝり

双六ぐんて　砧
名倍知識　相逸
舞服校ふ　奴〳〵さ
二育延て居る　利吉

あさとめて

面
尾りやる氣ハ毛イおふく
ゆてそしてゆて篠る　絲　庚申
いやな祝言仕ル　息子
道具じやのこまくまるス妻　くら　つま　でた
道士ハ〜〜〜波ス　ぬくひ出双

とりつついて

小男郎　ちいさな祢こ　かき
壁の後ろなつく　蔦
油もなりり仕ル　添乳
牛べやくなくきりくも

すくてある　惚人
渦ぐゝ持て来く　絲　根来椀
み代もつづく
さこだて新れ賣く　犬
のくまくん　覚ゝ　居代
後ろつぶ　絲　市女房
ソレそれ
古沼かしくる　草の中
縄沖迹ル　又彫つき
まどろくづく仕ル　勝言

秋雪ら庵　あさし　鳥

ようやいく居ん　ふかくさ

ささそてん

雪の気なく　蛾浮狗子

牧法の度さふ　毫ル　浮袋

附鬢さがた　二月　碎

あて　芝居りの　聖げ

浮が育つく

海亲の毒な　む　入巣

以夏の死也　たいこもち

素しく絲酒を飲茶や

九イりり付く角りな人

メレこなくめく居る女房

かくごして

溺筋なく　帛巾徹

乳毋も飛ミル　浅地蔵

絲やのメなく　馬麻上邪

寺の弛元と吟ふしちや

よくくの夏

雪の沸百度ん入ル　弥宜

おもひ入る　恋歌

女房を呼ん　矢脊の郷

捌く　妻を呼ぶ　接医

車中むかふる　結構人

遠士の笑ひ　かもの

之引ふ

粹く　遊ぶ　藝子

傍ふむる場も有ん　士

かふく　仲居

四月日　振く　凝る　仲居

散りくり

て窓のそなたを巻

モウノ　秋　別業

舞くあくまくく

別な物や

小判と土仕ん　茶凝り

法師の雪　消る雪

太夫の義理　惚る　又

告人　恐し　利発妻

何くく　法子　口入

醉ぬるに

落い髪すく　老女房

猫ニ干ふく　嫁

始末してゑん罪ふ書

狩つかのせんだく仕ル彷冬

肉そうじする　僧侶の書

意イ所にて

かるかの若むス　山師

作病ゝ粹か　年慶医者

浮動南様ふ　亜ふ支

かるゝのるゝ　不浄

ふらゝ血し

ふか汁ふる　寺講中

戻つ祝ひ　寺や

なんぞ見ふの　薬代

溝ケ　油屋が　芋ぢめ　犬

帆を下ケて

ゐる砂ふ　入宮者

子のヤ女ふ　からゝ後家

二度の嫁入さん　大乱

老人うち
迷ふうちみつ　蒙古邪
乳母うち同じ　高砂梶
人之の氏あり　多数
細屋敷ましま　あり
脊筋をぞめく　鈴を音
うゝ付く
白き狩なる　かちくや
思ひ浦うじ　乗り井
抛竹鼻てかな　大二

[illegible]
[illegible]嫂の迎に　大男
年ぶ[illegible]なし明て棒
式モノル　儒者の丸浮
[illegible]たこれあるうゝ女房
お嬢しうろ
[illegible]繼ぎ耳引く洲
本一の荒とる　梱ち
めでたひ眼ゝ　藝子
借ゝ　鷹て叩く尾

大まーぐら

栩 ル国うゝ 如ぐ迄

演士う 入しる 霄竹子

鬼竹 揚り仕ル 縫子

別くり

噂の腰だく 泥亀や

縫やの醤とし 同

奇う 択く 多比秋

浜りいせ 海 抛る 婆

一家の栗 望ル 藪医

亜ず して居ル 刺しちや

ぜいこう 遠入 野雪湯

安イ 西罵ふ 古て賓

かくしとげ

出ル 乳とケル 生ル 斗罕

孫ゑり 白状仕ル 丁 祇

流迄ゑル 我情噂

下女う 寞入の有ル 曰ク

よくふや

おふくりて 宮く 書弦

欽やめくえん　雅楽
飛脚ら喧し　今ふ　注文
年ゝ
さうやし筆ふ　月貴明
ふり袖もさる　小舟坊
死ふるも首れ　寺男
ゝゝ
沙れふ忘吊ふ　玉藝子
門代も出ゝ　馬
繁の死も　絶機猫

たゝ
ゝるゝり
ざ立不角力り　細字
屈ゝ遠慮せも　百万遍
江戸よも伯父の有れ　毛利
伯父ゝ耳と貸ス　太夫
正直すぎ
さうや法れ　減れ搭屠
ゝゝ剛勇れ之　藝子
未タ不れ　糸菓やの子
ふゝく

仕侍りしく　参宮
女房の相はみる　酒
モウ　庁四くほるつ
子殺でふぐ止　お接
るう加は
梟突合く　猿田彦
孫ふうる　岡惚犬
義理はめる　食芝居
秋うけじ
漆負しく　竹は都

中京の横町ぶ　奇
げいこう見止ム　軍の夢
茶粥くるくるる　くしく大
吉日で　口紙治
梶音の仕ん
清月銀子りを花菜や
引めひて　根壱
里て女夫り仕ル
奴てくくく呑やは子
下雅の夢とる風呂

子の日うほめしく女のよ
連ゝ出来
小玉喰しい　坊主丁稚
内て小山と焚く　長家
道の狭しい　惚人同士
出の口切　青二才

九なつく
温泉して居る　火打石
ちくひの利めを蔓子の樵
中丸日分ル　故し　亀

百一万遍　遍ゝ角が　なし

網メクリ
寒港で吸孔　精進ケ
めるひ茶味ふ呑ム　達士
袋らぞ合ふ　濃ル繪
北野と戻る　寺屋の河
天狗ゝなつ　ゝ出鐵医
浪風なし
殿も裸ぐゝ　邦
おく横浮ム　四本ル

衣友うきさる　後の月
永も尽しく　人をひ
捌うんじる　出入方
芝翫びいきう　成女房

孫にわうし
太夫受せそ　貪乞非
のゝ〳〵る大工ふ　書院
さゝの紀源　紙子
ぶゝよろうぶ　門徒宗
老年さゝ

一寸抱こてゑん　仏ゆ
初ん育ん　降伏寄
年〳〵早ち仕ん　懺
恕月の春中　中く仲居
扇子風引　仕方の関
ゝゝせがり
節季や法ん　羽桑好
梅ゝ笑エバ　喧しく
主イ忠義かゝひ
紅なゝ子みしか孫まな

大金をしく女房
名而已表しる奢り跡
子八儒者狂を明めら
門り丁稚のある丁稚
眼を二ツある瞽女の供
累報り狂生別し
愛せんと
ふとん絡織る婿入乳母
舟ゆく居る坊を丁稚
浪子と延下るの縁

水屋筋いやしく塩俵
此那にや受のすい大工
とんがうりと仕る小法
くふうし
鬼子と産ぐ土佛嘸
八月の自慢仕る件屋
鬼一でヲヤツタ多しお
私しに
和尚の稱元うける奇
男はたるさ風呂や

ゑ枝かつ〳〵とらそ〳〵冠ナ
縄の〳〵きんりむしる士は意
寄蔵なるや
夜抜笑ふく泣しく泉を
塩忠義ぬふ本妻
百姓も蓋ふ　小使たご
形より
八方吹清人　坊主稚
蜜取り　蜂　娘
一角貫ふ　鯉　捆

ろぐれ
て晴しや
ふり名俗と　濃に　人
米やが儒ム　ふしぬ唐
子の清むり　照み馬士
ふゝがして
蛾入ふまる　廉鳥嘆
明ケ人家ふ　文庫り
恐らしい
施餓鬼の舟〳〵乗くたいこ
出せしぐ夫り　八卦みる

七夕の鳴り物　揚屋

まとぼて

禅うん　拳角力

酒樽色ム　小風呂しき

相撲　女房

吃が教つる　曲り道

廣ふあみる　なぜんうき

七草　潜んぐく　四枚肩

足れ邪广仕れ　米搗のこ

蕨り惚れ　むこん奇

いやなもの

深北ふりしくふ　流り人

まぐく毋者人りしく　茶ん化粧

るる拍ろく朱ろく　地方の嘘

こ張くくく

節　乗まのくり仕蕎子

杜ら蔵しく　掘りめし

女れ惚る　角力　反

愛ッも美せく大るのこ

蔵ッくく　暑寒乙蕎

もたぢて至ってく
ふんぬ腹
泥来こまる
紙屑や
伽藍の清る
羽織り負てたぬ糸巻や
日本社脉のつ
芝高
つ〻ぐつく〻
鞠
古城石くず
べにゝ彩つけぬ
揉浮草
檀尻敷ゝ
宿老
未度〻ふ
家の為

ふりむして
大あれ
孤収ふ名は
客
縄て凌イぐ
釈子連
揺戸の守社
巻見比
ちる混雑
六ツのも
犬ほゆる
なんの世社
百舌
淡ハ合点社
拝
一〻深んぐ
花の供
泡〻二十日と
紙ス伊吾

かくしても
隠すを知らぬ小僧
芝居のまねやうく坊
ゑてれる老女房
中山稼ぐや嘸つらい
瓜后の仕事入れ妬
涼イクつぐ知れぬ福
す白髪ル桶の輪や
尚にして
椿を抜くたる皮

そやつ、妻の留
一文拾ひなく沙走
いやなかまの節季
かふくぶつ家仕れ番頭
ふ女房ものもい男
そみうり
森れ附うげふろを戸
小使うなる小男敬
盗隙なる土象舎
独むの恵ぶ百姓遍

新山寺さく　後藤

（俳）くらう

底ヲ叩イしく　尼拂

笠亜と仕ル　沖江林

草餅うるくあるく　猪子の沙

四つうう

笑ふ、仕組せく　木綿店

仏のさうもんゑ絵さ

節重ね人てゐる　ひらき

麦で年ねん　（俳）儀の女

膳引く沢へ出さうら

滅太　性

砂うん坊うなく　扨らや

鶏りな産モ　ばし娘

巣の写巴　帝金坊

仕ケる所そ　行巻見

翠丸端　坊せん反

（俳）くうら

又京の塔うう六の墨

恵嫁もヤハリ　公界の新

牛道ゑゝかぐる　寿
空の多イ　貧乏柿

やりくり

蔡として仕負ゑゝ涙と戸
かゝひの欲しゝ　大雪清
葉さゝくゝ生ゝ痛とり
神前とゝ羅の寿
婆婆ゝ　神の孫
司り合ふゝ生りや人の
迎眼ゝゑゝ　細字の名

地蔵ゝ歩後仕ル子指
子ゝゑ服ときゝた落葉
絵京蓼ゝ居ル土佛
浮雲ゝ
茶屋ゝ源ゝか舟母の
そのかゝい所波座女良
面も八幡ル　按ア板
道連ゝまる　友紙ゝり
ゝりゝ渡ル茶ゝん売
納ゝ

藏医の去ぬる雷は蚊法
森酒のうまひ茶をうや
年貢屋うう破ふ広
喧嘩そつる筆は素
先うう孔のなひ大く

作べんも
暇をする破うん坊
苦情地くゝ朱ル焔魔よ
挑灯むむーろき
一味うう

やつーめヨ待土壺際
ふうう祭うる美は非
年慶めるる仲お
石打うり切もぐへる

いやがらく
七色を法めう蠅
寿枕ん底を綿
名やぶ入孔機変
嫁菊を法ル かもや物
給るぶうう逆ー

ろくろく
作も接て多藝
吸売るくい　安心
旦那も有る　氣先
ゑ狂ひ中井通
狂ちひ
売人の尾も付かれ
澤山餅や所持
ゆるもいるも　俳義の
若ひ狂ふ

餅宝坊二日破
中イ若ゑ尾ふ伯父
雑煮を狂ふたもの
なゝ
子教の曖な宰道法
モウ法なのなり相撲
渦北尾ろく文藻四良
別心なふ
悪かな人ろも那
奏ろふく罵尾

祇ゝ一家へキブイ　舞
仏屋付ル　羊羹下ル

けふゝひ

東より
角カゞしゝ雪消し
快気の夫へそれを髪
サア探ミせしゝ　結捷人
北しゝ犯にて如ゝ正一打
山ゝ公ふ出ん　百余姿
　　厚赤しゝ
新別ゝ養ル　夜の月

ちゝ　小毒をふ　決
拭やれ　四枚肩
邪ゝ茶屋の　見限旬
ちゝ出て
嘸　大病にしゝ　藪医
時斗中風にしゝ小倍
下駄ゝゝ　坊主先
雑波へ通ふ　泥一丈
　ぬけくゝ
夫ゝ濡ぐる　神仏髪

丁雅ゝ黄ゝ　大小玉
粘ぜふ巻を奉　藝子
蒔を云列〳〵ゝ　女房

只ひせ〳〵
いつせ〳〵出せとハ仕ル　藝子
見張〳〵又ゝ〳〵江戸状
ヤツバリ　始末仕ル　女房
十、不粋
燭臺ゝ〳〵ける　遊藝子
瓜筋仕羅　叩ク　仲居

ゝ〳〵ゝ迎ふ　云ル　高
酒宴〳〵ゝ
皺ゝ〳〵　男　高
弁慶ゝ凝〳〵　居ル　大鼓
ゝ〳〵ニヤ居ル　蜂ル
右の〳〵　養〳〵　寡
よい〳〵〳〵
妹ゝ〳〵ゝ　永れ母
莚毋ゝ　小児　医者
笑上戸ゝ　性〳〵　天葵

意氣へ消てゝる大工
度度眼を入　料理人
　　ち所り
無疎ら困る　四き　り倒
夜盗かゝる　不動る
だゞ卵の利く　左丙者
　　洗ってゝ
又も一度ハ味ふ　太夫
二日酔しゝ　二日酔
御気見ト藝子ノ子

加利　人こん意ふ書
　底氣味ふ
犯走ゝゝ　ゝ祭ノ友
流ノ利ク　芝居見ル女房
ヤタラに浪ると　夢の仲居
贈女の眼ぐらう　吹舞子
身入レる世話を　更る浮氣
書歌のたて　鱧
　念願ゝき
革鞋のたる　有ル利当

一生出す也腕に業
石碑紛さ出し
連つるのみ
どこの神見もうく法や
悔の変居を越す仲居
筆はうふ沢源居
突迎んく
湯来り強る口源治
げいるはさも指義る
旨りこの情のくる矣春

積りや先ひ
少しさのくく意所
宮踏の考義する持
夫の男来なく筆雫
倹弱甲奨と号ふ書氏
ゆこりめやく
三味せんをく鶴仲居
若のなひ人の安栗茶
乃老ゥまふ十九文
ゥ出くる仕ルよ孔

四くで

[illegible]の耳へ付くべに

[illegible]の[illegible]大工

[illegible]しの[illegible]源居同士

[illegible]心と[illegible]ス和の[illegible]

[illegible]やや

仕[illegible]の[illegible]小[illegible]

[illegible]しく天狗いよ丁雅

毎日の[illegible]

四舎も[illegible]源義法

まちくやや

[illegible]夫[illegible]毎

[illegible]弾[illegible]書[illegible]

[illegible]

[illegible]子[illegible]を牧[illegible]の内

[illegible]

[illegible]

弾[illegible]石仲士

夫の[illegible]

[illegible]姑と

同[illegible]

法ゑの下りる八幡領
屋ゐご塗る四社かどり
おく床しる
葛傘て来く九杵
朱あ入る末綿の
傍よの周しく京紙舟
知りて居なく
師匠一ツ言ふ
子盗人く惚く人
あらたづる稲の月

命ゑの種
るよの生樹美男く美男
でむらまてまくと出る女夫
のらす徳る走夫婦
ちりて
月溢れくる巾月利
太夫の駒ちく裏改
三世おりる毋く乳母
母のかさりくしのりや
翁もみせる菩清の図

乳母うゝ向うに豚の外
子秋乐
奪り人ふ字治の
百姓仲人ふ接れ足
内の餅つゝ賃つきや
エラ壹しゃ
漁の丈仕高ゝ舞屋係
日の出縛や瞰る屋
表向ふ弟祝方の人
うるひテく

入る者
高の下りゝ嫁の紀
濱牆とふつゝ人
呼ゝゝ
ゝも静か力源治
二日酔仕罪の文
七夜ゝ囲ん麻角嚢
恪気ゝゝ
ゝ一数巻甲ふか紙
ちよこゝ天窓剃度

箒の名ゝ掃
計仕業凝〻矢脊の鳥
朝めざり
芝居咄し遠ふ下女
大ゝ笑ひて森ル小山
女房ゝ夫のもいたいこ
夫へ気ま病義理の母
昼迄寝て飯イ飯くゝ
くつくつひ
気もしろ小間物屋

菓石のもとゝ老女房
ゆりつくゝ有〻娘
笑ひ転ぶる合相持
吟味して
高ひ拍ふ天狗茶沙
鳥ゝ抱ゝ男毒
孔つきめぢ紙くぢや
孫つゝ毛のなひなら
墨ゝ
嘴ゝ抜かゝそる土

口べにつける物か山
人孫清水仕れ丁雅
乞食てもる
惚人の弟ひ為の門
身り人乗ーむ志ーみ酒
氏の衰な 謡言
大名てもる
鳥仕ーく史仕ん名史
緑斗ハ志ー 愛
日浪若りーせ物刀鍛治

ケ宰ーく物 水浅石
京ホもかなー 茶のめし
仕選りハせ見か山忠兼
宮等ケ性根
晒等ケ名 板ホ新
塩てもる孫ー云ー
文字の筆ー 吸法
同ーく久三ケ ホーー
滅ー沖縄
勲ーんて生ー 宮の供

月さへ曇りくらし弥ふ更ぬ
古堂の灯を点ずるに中風
迎眼ゝ覚ゝかぶり付
九イ丁ゝ窓ハ紙也伊勢
已　十ゝ
毒の湯治も毒の低
左史入しきれ伯父の粹
色恨りの涙ふ母のる
三度目の流れ国行
論ふ及ばれ

弱人宵ゝ
鶯ゝ
梅ゝ泊ゝ
いつゝ
兼石里きんぐ
押拓ゝ
人ゝ
いや女男ゝ
へイくゝ
越ヲ節ゝ

親化分
門陸婆
雀
毋コスル
若の良
美の屋
心中立
ふて
噂

無心ごまかしよ万者
貰かゝと足らぬ不成し
歌の義　有ん小間物や
播さう播し
の猫ドヤく　料理人
箱入りじる　白鼠
嬉この叩を取る　蚤
浮気から取付トゾノ　医者
とつ余く
喰ごし園　田楽屋

男時の美男ぶんの悪や
市やかみる　夫婦之帳坊
京遠の来ん　並る筋
代呂らの叩ル　運ざかり
絹たし稼り　之縁談
京の押合ふ　判悪嫁
花雪の夢くせ見ル　藤沢
中山さんの一浮之
いつまでも
達士と鏡ム　四本のて

紙屋のうづ丸恵比寿浦
やまめ〳〵うを〳〵　卯月
人魚〳〵やまなか　形
楽しみ〳〵
御徹書ふ　大原石
弁慶ひらく　紙
大キな竹　茶器や
高〳〵　丈石げ
あらうと
田の花ふじ　るや町

清紙千〳〵むしやう
色好の歌ばや〳〵　絵
味ひ〳〵
よとり除の　四海波
夕雨てふれ〳〵　仏
牛のよメ　きれ　傘
蒼〳〵東風ハ　土下雅
天窓〳〵
一滴ちと　隆中
底を　石佛

問ふの会　百夢遍

どんやうん〜

女夫ふなもの　神ふの意

慶日しまごる神十日

白うの雪かてちの使人

成寺遍年り　家迦葉八

一つ〜〜として

拾うく壮丹の活キル尼

毒う掃ふ　神代

心ふて〜

言る雄て言ふ　養ふ

葉ふも一す

表紙酒ふ

上ふる　鬼　男

坊の俗人う清め　線香

法ふ〜ふ　ぐの船

器う　ふ入り　吃丁稚

文もう　眠命

郭て孤して

風呂うしろ　白蘭
続目うり走る　土の嘆
沸ぬ湯の門　かもや
絞り並ぶ振うま書改

きりなぐ
川蓮つ　迎て
女房実く　惚房り
山吹　有馬宿

柔さな
仲人ら　提灯

ちちやへ　這入　濱土噂
偽ハ懐中し　藪医
を出のて　せ〳〵ト左系

先ま

一人なづく　敬　役
日〳〵　怪　悦　利麗子
扣旦　怪　消ス　棚　強場
出だるう　並ふ　小粉　懐

ワイ云て
芝居　居の出　出る　大丁　雅

絵師事仕れ出入嘲
美男ゝ囲れ之出下ル

いつもの事

耳の役しやく男ゝ
ちらちら負ぬ屋のゝ孫
ゝゝ孫らしい白子
嘲とやばくふゝ白いこ坊

心ゝ

欠ゝ方ゝ法ゝ美ゝ絵
なりげとなと
鬱下孫亜化美也那

表ゝ味ゝ絵ノ感者
有ゝ
組て流と出ル奥玄
仕之やゝ美ゝ絵孫織
絵ゝ

罪ゝ方ゝみゝかゝ蒲条
髪ゝ絵ゝこゝ多ゝ一三
脊虫ゝ美ゝ多ゝ独日新
大ゝ
ゝの耳ゝ絵ゝ

糸切の吹く門跡坊
揚ら天狗り御所那
累穀り犯し生きる
吹な支藪と毛ム丹波

のりこしてこさくら
余ろの眺りなくら
安ひまのしぼるく嘸
名のうなり沙汰
横ふて禅小伝
ほて
ぬ

れ蕗ど乞こしい角力取
口入と思ふそ軍次蕗
日柄貴れ藝けつくろ
ま先ら同ふ別出蕗や

梅子ふ
のもんも蛾も世書況
陰終とり夫拾ひ
ふ冥りり絵男
魚と思メて
胴と犯んぜひの

網メクリ
鯉と鮒くく居る 鮒
宵の宿しゃり仲人
猫くて杏ム 振
あんもり
泣く笑ふ 泣く沙
雪隠まり 裏のれ人
日くと泣くん ふ
矢脊の子 男の子
させるくく

居工くく石見ん 庭 作り
喧嘩のなくさく 士
敵を負て ぬ 八百今
心沈ひ
孫の祖 逝ル 祖父
日多百か 刺 っケつく 窓
よくもく 漆 口
藏ふほくる 嫁入の 高
世話ふ 入 仕ル 達 士
く 焼

う孫のつる抱しく毒の毎
医者う救しし一お塩
雪踏ぐ〳〵江ル蔵入丁雅
戻り渡又ル麦
森ル抜く出ル子拾
男ル神亀ル出し毒
星美く居ルむすびのる
ゝを消ス水のやゝを見
めつゝ毛性
会佛のせん別イ道

餅腰抜ル
拵のきたるあしのよ
宿やの按ナこうい毒
食滞しても昊祭
思附沢寸
旦那の白髪ぬしく毒
丸髷つゝ猪ッ蜂娘
お茶生捕ッて来る発
出ル水中ふもとる廉毒嘘
蔓箱さげてそも下雑

京内ふうむ蓬なし波の
そぐり始ケ
肝を蒙様 丸 油煙
大がらぐれる 遠り 倍
史物の写に一人り角力
京性を為る 初小詰
旦那義した 曲輪駕
ちいさな
なか牡丸スス 角力 元
名斗り大きい 火芝右

別なへ庚心 義 旦那
むもやの幼女 女くらべる 巻
彩こ泳こし 恍 毋
大名の亜ル
京の町
風り結
椿 大るり 仕ル 友
沙 やう内り 簾 大
于鯛の亜ル 法 大名
傘 傳 やく 俄 雨
業山子 裸り 仕ル 多主

根うぐり

戸閉へそくむ　雷嬢ひ

寄板吹てゝ出ス　あらや

ちらやうゝ出ル　寺講中

ちいさん矣きぐる　羅

なんけのゆゞ出ス　ぶつさ

いさぎよし

あゝ一刎　鯉

小便切　男の子

田へ降ル小刎　道祖

柔あゝうん　ハリハ　祖十

ぶきのうゝ　神諫

すゝゝ

物ヤの淫なり　医者

さぐると　捜

嘸ゝうぐうゝ　あいこ指

中あらしい　あの門

芝居うん　乳母

思業　掘

うへ嘸　出る人

十度盛りふ　角口元
えの按ずるなる　藪医
道ゆくに　庵のひむ双
潮くゝ嘲をもつ　美男
月らせて
逢孫うえん　結ぶの縁
鶴飼ふ　茶の湯
部うえ　屋うえ　くめ婆　悪嫁
強者ゝ　職うえ　葬礼　法事
後ゝ　三人　宿　遣入

又しても
嘲ハふうむ　逢ふ　嘲　鬼の目
傘の信りぶ
屋敷を　湿　右
下せうえ　元寿
化者の下　義　結
粹
池の傘　や
ぞきへ　所　宿老
三人　蒸れ　仲右

ふくぶ　中間うゝ　蕗く　粧
山吹　生ぬ　有る　高

むしやくしやく

ゑゝ　もう　後の　ち　ま
孔雀の　ち　ら　ゆ　る　る　土の　礼
ま　う　い　や　ぐ　る　も　崎　医
き　き　い　な　命　ま　仕　仲　ち
す　つ　ぐ　り　ま　し　ま　三　百　自
笑　ら　ま　て　る
ぶ　り　と　命　せ　る　藝　に　ま

毎　泳　ら　ち　カ　ぬ　り　る　爾
汁　意　ら　し　け　ま　沼　の　敢
物　ま　周　果　へ　ぬ　ぐ　仲　ま
か　ふ　く　女　房　う　お　ま　や
梅　咲　く
ち　石　池　ま　寺　胃
不　器　器　ま　京　の　せ　く　元　爾
毒　の　沸　し　い　ま　ま　い　村
ふ　う　く
戻　り　の　う　ま　い　大　沙　興

あの糸乃せ〳〵内雪清
の〳〵宮で〳〵宮折〳〵推
新のう〳〵ひ市雲のよ
樹化りの羅丸鄭ふ高
〳〵宮う〳〵
湖獄の出れ 横綱
尻の高〳〵有んの糸姫
を史ん〳〵る ふ石物や
糸紙紅もれ 沛寮人
矢面衣むス 横子委

糸あく定ひん 品玉〳〵

オア〳〵
二かひう〳〵ぞく義戎
丹波を石の高〳〵やけ田
石夫を紙死〳〵雲
冊のも〳〵鳴れ 健袋
詳影えて 宙とぶ

〳〵〳〵
む車う〳〵眼冊〳〵姉女郎
撓〳〵けく巻れ 玉藝子

[illegible]
家の抱へつらう猫
藪医の毒うぬくたいし

[illegible]
餅こり賞ふ縫ゑの内
医賛と仕ん 鍬をうり
毋も刷心仕ル 丸舟
せんざん治ルたいこ持
秋まで海でこの年当
[illegible]

奴ふるつゝ居ル 豆腐
ふくの神まもなるゑ村
たこ引うけて来くらげ子
[illegible]ふ乞れ入まるこゝ扨や
扶つひゝ[illegible]ん 美イ表

[illegible]
鯉より眼の利 弾小信
[illegible]板の弾さゝ低者
干[illegible]ゝ場乞し賞
きらやの日掴清入塾子

遊山 仮目の者 三ツ井

ぐびーてー

浮れ〳〵女夫ふ〳〵 唐子

迎とろ今の〳〵居ん縁る

あ光買たれ 未明 のる

のうけ悔りさ〳〵 牛

儀を第 儒者の型

地走ハその

寿の鬼門 北の方

いの字も ちらで紙の

乗り風と引〳〵 殺医

ゆ〳〵やの後 乳 花 笑也

賀祝 音 孫の孫

祝 極下 の 拍 系 系

蝶 男さ〳〵 七 佛

四〳〵〳〵ば 九 六 娘

ゆ〳〵 ち 丈 の 艶

九〳〵て

書〳〵 ㋱ 表

窓明〳〵 有 ㋱ 風 雅 茶 や

一ぢとなりんふばこ後弘
太夫の釜うりなる宿元
卓郎の出く　男　伊陸
めでたしく
世況市住くゐ居まる
鬼の初夢乃く　向や
朔日蕎麦とくゐ八女丈
奥義の迄へ　大法り
解紀明く壽ゐ　稽姫
えちぐく

乃夫の名とゐ　元ゐ人狀
地震うし楽京ハ下根
涼貧水よしく　涼唐
婆のいゑんと学く却這
足へト駄くく　賢いぐ

あうきくて
る乃花ゑん楽人の屁
瀧子のかくる　女
枕のり清くゐ
くくるる京ゐ　立ゐ

いつも冠らぬ風呂敷
百風仲西冠る餅屋
浪花橋れ むしー汚変
お上洛りが 菊井寺
もと開キ下り 豆茶碗
いつも笑ふを湯の浅瑳
筆のむしや
低坊のこまる所石の筆
糸袋一ツぬつ ふ
ふ撫が出る 上柄紙

豆腐孫ふ煮こゞけ
まつ豆ふ八軒 ち
道ち出ふ 井戸の辻
車の押ちる
へ ふ ノ出 ふ 浩
横ふ ねむ 絵 歌豆
邪めて戻ち 生の伯父
かミつり
ち佛の脊中もむ 按广
抱工の角カりえ 留ち石

かつをけ投れ孫こん坊
河が出しこちの〻ゝ痛
前四へ京〻皮膚ぞまん

男会しゝ

出殺冥加　金輩きん
来やへ近入〻女房
中家船入しる扶母子や
遠戸〻〻ふ乳貫
吾の恕男根ふちち
出て〻牽日を第ふ史

〻〻放しゝ豫の滝
まめひこ〻
砂姉たつる井道ち
紅ぐ笠めるる別業
殺入こめいろは菜や
あ赤らしひ遠
小銭を海る笠小家の子
秋の実くある点不菜
鼓の藪生しゝ美ち
うんぐんり

三味線を切て掛ケ蕊子
永寿と流の鬘 酒屋
ものゝ如く毒の格子
凡中のこまつく有巻や
俗りの者 鬼 矣屋
色とくらぬム 撞木

[illegible]
贅女の入見呂 焚下雑
小列いやてふふる 米屋
幼女り宮 白 龍

お袁の大うなぎ下雑
出ぬうなぎ、粹ふ 狩

二ツ三ツ
女夫ま彩 六月 垂
宣地のなすび 漬れ 赤
ま狩ふ冥ふく 庚れゆ 魚
叩く家ふ子 文 戻り
丈夫なねじや
そぐおうんまる 矢脊仲人
凋華 亀 永大工

安歩ふ賃〳〵あゞ羅ゑ
仕業くあるあぐを
汚みそうしい代列人
子の自慢する関の祖父
ホイ仕業〳〵
貸スるも清〳〵小掘灯
あるのかしやけまるよ
引一越〳〵いとゑん残布
下戸ふ〳〵らも〳〵湯網の眼
忙見ん地めるう使ケぬ通

れがゑん
咋囲ゐはめ〳〵〳〵るよ
対のまし〳〵優者の越
筆ぐう掛〳〵人弟八
城面使る筆理の
まゑ〳〵け主の安似
川ぐつ〳〵
あよの使ふみ
黄ひ人のゑん姉の新
縄子使ぐ〳〵チャル行使

[illegible]
園えをする者や畢
[illegible]の
[illegible]
一[illegible]のもの[illegible]に作[illegible]れ
[illegible]付さぬ 講釈師
スカ[illegible]れ井戸[illegible]
[illegible]らしい
[illegible]すむ 奥[illegible]
[illegible]おれ[illegible]ば[illegible]
菓子[illegible]の[illegible]で[illegible]戸
[illegible]

[illegible]
雲の[illegible]
コリヤ[illegible]らしい
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

盃へ散んよしの心
仕打の惚ん丞役者
庄屋が酔ふた後の月

エナらさくし
畚から出しさ弁当
草臥らしく倅の夜
し名もぬ道行も見え連

かくひ串
風呂吹大根穴だらけ
新参りチヤた操後家

試や手まつりてる留守居
和らうふ衰こふく居

心よし
疎あしく竿 鯛やく
月よる小判 白眉天窓
女夫みはくよ 筋節季
盥して立くく 渋イ柿
かし失つく 薬銘
井戸壊て猫く 歩渡り
間夫が折紀きしまふ

燒田小列　大夕之
蒙不動　老史帰
田樂狂　帆の竹清
蕃図　今道心

ふもとの
鳥と喧嘩　恒例の
うけり　毛氏旬
出くり　まるほし
仲吞いやな　芝吞り
のらつきが為る天下蕃清

翻邪　大文字
二本　長寿の薬
水　大の
校打　新酒
駄　大騰
悪くしり　絶の糸
怒の為　三日の海
胸　合点の　三百文

くみのあるも役者の紋
新つづき
常もうつり戸の巣
又月為法る殺や
秋のもて育ん絵屋町
運のさうな動進え
為芸ハ為め 撥な四
吐しの潜れ 薬殺屋
夫しなうう
逃ようよ 落ひ 絵

る鼠 軍法
花と散しふしも捨小舟
雪の天文東山
とんと源作ぬ
薬が見とりく藪医
神仏も運不運
未辻のうに機の言
居服なる 大豆屋
はな 侵出茶や

ふくとして
念佛申ス　郷計
露銀子も蔵義理の母
ちかえせまいの継不信
三人の家にひく嫁
法ノ慈悲とおもひ四十のよて
掛り湯暮ふ町女房
小僧かみせた足番袋
隠元かおもふおかしいその
二階かし

山鳥しく／＼啼る先斗町
下駄きしきるの十日頃る
尻とこむ様つくよ長亀
吉田の宿ハ恋と待
お山のちよとさる場風
のらくら
翁味りけり　百姓の子
連ふ迄ル　山が毋の子
はしたうしうらが源継嫁
殿中御免枝沢巾

不眠むさぶふ　ふ　恵しーしび
　　ゑもくとく
遥きく　居る　庭皮の意
言　取ちげむ　大家　髪
孤　こさうれ　墓ちる
思惑とつふ　法目論
　　と自慢の人世場
　　箱ちげ
十一月　ち　庫ち
　　と出ん　沙走未土

福ハ　ちして　来ちメレニ
　　ちまく
　　ちまく　法法
　　ちのとつく　男　亂
　　しのしく　昔の一ツ
　　ちんぢたま　孫　数人
　　ち　法ル　二日　数
　　所　曹ぶ　濁　れ　京男
　　エラ　法り
　　又　美　ゆぶれ　穏ぬ

足捧ふしまわどり紫
薮医と連る百の佐
湯殿のうの底ぬく舟場
ちりぬる梅りなる伊勢屋
サア酒らを
焔〳〵逃て来く宿老
惚人が迷入雷の蚊法
嘸りと云ちゃ山の
夕立とふすり干
皆が寝るざと寝の尾

ふく底ろふ
乱ちら咲そこに花反
客と答て隠れ里
迷土の狐〳〵人
屋云ついく君出漬
鬼がいう
春もまけ〳〵ぬ菜ろ
笑男が弱ふの抱や
こと実りけいこ
神祇〳〵十ヤル本戸の嘆

自慢して香る帆柱や

ひつたりと

小判のひゝく体の身

徒抱く羅後乳を

読会し光天竺枕

よ踊るそ口れ紅

ぶつくりして

葉ぐ云ふ抱ぐの遊

京稲荷ぐ

動ると事唱も枕の

古縄笠のみ被つ

鬼と組合

かゝの初ぐく運仕

猫のちひさ呑や後家

本戸なりくさ沼

喫て乱る波形

にくゝ

結页くらせト国る

下女の唄く年の泉

お酒ひらく柿を

縫子と思はれつき米や

志をらしく

女房も交る五百げ

かむの座半なしら笠

まろと老ふ沖舟頭

旦那が箭ふ盛り妻

石碑と立てし名なし娘

出したり入れり

妻が気まよふ佛田の日

髪つりこまつく宿より

時々辛気な洗濯日

季候ふけしくしくなし

箪笥より四季の衣装

丁児日土よも貰ひ酒

摺こくり

追風りはのすまし撰

あひきうとする棚縁箔

ゆし書こひ　留守娘

惷　ちうちうしある息子

手構へ太産叢なじ

此場ハ殺伐くるしき
面影なふ
秋風ものさびしくとろる夕暮
のちはひくるしく苦業生涯
本戸より接る働く眼
でつちひとふる丘の眼
涙やへ奇なる目ぬ眼
ふるふ
孫おもふ浮しづく
涙ずゆ白川流

永殺をしる人の殺
信義の意我打毎
絶えく支度指かぞく
さくらぐ勇ふ意史帰
これの警うり育あれ
果殺がわりふ生別
化也永身を知ひ合
眼ぐくえつく泉なるあ
生命の離する聲女
殺所生下女がうる昆布や

[illegible]

ひゝの屋をこハ親と邪

一すゝんハ　冨　遠　山

冨士の巨麓に大地震

鬱々しくなりぬ　ふ孔雀

小紙に　西　祇情百韻

世ぜんぐむ　東海道

阿波国冨をく　芝居ゝ

五月雨　蒲刈　笠田の長

見事なり

死新紙の形　阿波の鳴門

大工ゝ　恋　春日山

一角　蕨ふ　鯉　赤ゝ

大根　祇形　屋列古屋

とうハ別れ　文十丁

沙弓ふや　岡口　京の高

ほゝみか孫

雲水やとなる　ぐずぐず

すぬ白こうれ　桶の海や

実の尾紙　武蔵の母

かごよたゆ
隣り冥途の流用を
人文四　男仔達
ふりもしてそんさ匂ひ
もりえハ余ってゝ有やもめ
仇なまめ
子鼠のわしく果穀拍
仲人ぐばやく虎雪踏
逢ゝ場よ方義より
かゝりしハ寄の情
秋毎ゝ弱る憂の
いそがしく
鼠の変る白ものげ髪
幕くかすもち二ツ三ツ
高変げやく町髪結
廓ゝ調合九猿
紙森もひ利ゆや
嗅ゝくぐまく太鼓拍
ゆをとりく
黄ひ人のなん姉のそな

梅が脉とかれる　宵うづき
汁沼冥加　水の巣
大あくび
面く體のうめる矢拳
川くぶてをぬる油
雷どまり　馬
かすうな
名をとる　汁
細く利たひ　紙屋
元の世話　帆越舟

三面一を見る　紅葉
葉が利
周果者ゴ　蜜室
丁児　るまの穴
生揚ハト　戸やな　美人
胃まで　恤
ものも　佛　樽　足ふ　面
蕨　ふ　冥　小　山
孫つ　内　り　姑
測へ　意　こむ　ゆき

小イテ、
大名と派　大番改
節のかり足袋第ふ矢蓉
京業すどろしる家入
種をまき
麦や稗　北条ひ口入
法ゆ　うをある藝子
市茶所　ぐ匠の弓姑
庭ごれ
雪の清やしゃん影

強傷人て居る書改
ちらつく居る男毒
少くて物
かくれ紙先ふ藝子
玄の樣子居るふく
ぼしとめふこせる毋
格子うう遊　屋こら
あこふなり
ふなのうまく滝物子
てこうて　北折　口入

毒の毒とされ蠱
つくりたる
地獄の絵
説話したる風呂後
毛あくゆづる糸ぐち
まくふせ
小豆とりとる竹や嘆
毒筋すかしかや
すいぐちあける虫ケ毒
傷ケ仕用

合点の切ぬ後はあ
兼ねるがそちひ強よ変
ぬらも呼ぐ蒸やのよ
桐は格くくりすれ
毒の幸交かぐり焚
大切しく居ごやのよ
毒蠱ふれ六丁目
乞拭ける居吳方
見もるよ

悪てにまぎ歌役
探さしくする隠まと
唐丹のむ称ぐ筈で室
法尾合せ　星嵐
日和すぎ
江戸のほやし合羽結
かうくるのなん剣つるぐ
鏡をまてられなる成る
内のまへうつて傘也
のさぐうつく

初段大名の出る楽や
りまの合る馬やの子
きんくじり町と古今利
縁を体くる新割
たんのふしく
浜利の方がなく晴
乳房へ戻る女形の種
さるが芸せぬ奇妻
犬が気しく冥の反吐
擇合のしれぬ酩やの嫁

ふと考へて
大工ゝ学ある能所
為るのゝなれなる後の舞
太門や泊める事は
悪僧の反古新ふ十疋盗
見ハそく
宿替する〳〵京ぐ後乳
犯の合うすんでのけ
皮ゝ考ふ〳〵ふあり
下戸ゝ一反れ〳〵函網の角

やぐらの朝ゝ水あ瓜名
冨士ゝ〳〵
モウ死ぬぐゝ法華堅
幸ゝ〳〵事イ人
有馬ぐふゝ〳〵ぐる毒
矢蔵さんけする昆布や
ひの邪
丹波ゝ事〳〵すん姫
ゝゝゝ流名のある袋
嵐のあるゝる毒〳〵ら

六すみ　ものもの　有　関　れ
えれ　ものもの
人百目ちうの　恍惚　屋
七ツ　鬱きく　気まらひ
入日　織らむ　宮あるう
寄り　曲　孫　ある　変
小松　百　神　翁　人　毒
権　掬　し
ものもの
凡卵　薬　のひ　白髪づ

京　貧　ぬく　来て　流　義
俱　入るもの

ものもの
物人あ　ど　実の　足
きど　仕　ぬ　君　と　機　後
古　仏　仏　れ　七　出
変　なり
秋　宵　れる　家　作
物　の　ものもの　毒　る　笑
歌　の　ひ　炭　なし

倉章堂誹書畧目

冠附鏡磨　桐茅庵曲披撰
同名付親　艸竹亭鬼力撰
同後の栞　鼠六坊巴勢撰
同水加減　桐茅庵曲披撰

貞花代松
北久太良町心齋橋通所持
大阪書林　藤屋徳兵衛版